

「未来高岡」ステップアップトーク（大滝地区）会議記録 ＜要旨＞

- 1、日 時 平成 28 年 9 月 27 日（火） 午後 7 時 30 分から 8 時 30 分
- 2、場 所 大滝集会所
- 3、出席者 市民 47 名（うち女性 10 名）

高岡市

市長、広報統計課長

4、会議次第

- (1) 高岡市総合計画基本構想の紹介
- (2) 参加者との意見交換

.....

(1)高岡市総合計画基本構想の紹介

(2)参加者との意見交換

参加者

- ・旧高岡市の市道は法面がなくすべてが車道になっているが、旧福岡町の市道は法面が広い分、車道部分が狭くなっている。旧福岡町にある市道についても、法面を狭くして車道部分を広げてほしい。また、市道のあぜの部分の除草は地元で行っている箇所があり負担となっているので、市で除草を行ってもらえないようであれば、地元で行う市道の除草に対して市からの助成を検討してほしい。

市長

- ・市道は正常に機能し十分に管理されていることが重要である。個別の案件については、地域の方々と相談しながら一緒に取り組んでいきたい。

参加者

- ・呉西圏域で将来の人口 30 万人を目指すというがそれでも少ないと感じる。もっと視野を広げ、能登地域なども含めて考えながらイノベーション¹を続け、さらに人口が増えるように取り組んでもらいたい。

市長

- ・経済活動に市境はなく、定住促進のため呉西圏域で連携しながらその利便性を活かし、将来の人口 30 万人を維持したい。そのためには、隣接する能登地域や飛騨地域とも連携しながら、高岡市が求心力をもって行動したい。なお、呉西圏域が目指す将来像は還日本海の中核拠点となることであり、伏木港などを活用しながら、ヒトやモノが高岡中心に集まるようにしたい。また、文化にはイノベーションの力があることから、文化を実践するヒトを重要視する市民創造都市を目指したい。

¹ 新しい市場や資源の開拓、新機軸の導入など、新しく取り入れて実施したり、手を加えて改変すること

参加者

- ・大滝地区は高齢化が進んでおり空き家も増えている。空き家を解体すると固定資産税が上がることから、あえてそのまま放置してある家もあると聞くと、市として空き家対策は行っているのか。

市長

- ・日本では空き家が中古住宅としてあまり市場に流通していない事情もあり、市で不動産業界や司法書士、建築関係者と協議会をつくり、中古住宅の取引の斡旋や空き家情報バンクの登録を始めている。住宅用地には、固定資産税の減免措置があることから空き家のまま放置してあるということもあるようだ。住居として使用できないような老朽空き家については、建物の解体費用を助成したり、固定資産税の減免措置を見直せるよう条例も制定した。

参加者

- ・福岡町から北陸新幹線を利用する方法として、新高岡駅まで直接車で行く方法と福岡駅からあいの風鉄道を利用し途中の駅で新幹線に乗り換える方法とがある。しかし、新高岡駅の駐車場は以前から大変混み合っており、車が駐車できるかわからない状況では利用しにくい。もっと駐車場の混雑状況等を分かるようにしてほしい。

市長

- ・新高岡駅には 800 台分の駐車場を整備したが、開業から 1 年ほどの間一部を無料駐車場としたところ満車状態が続くこととなった。今年の 7 月から駐車料金を見直したことで、終日満車状態ということは無くなった。今は安心して駐車できるようになっている。

参加者

- ・民生委員の定数を削減するという話があるが、高齢者が増え民生委員の負担が増えるなか定数を削減すればさらに 1 人当たりの負担が増える。また民生委員はある程度続けて初めて一人前になるような大変な役割であるのに、人口が減っているために持ち回りで役を変えていくしかなく、民生委員が育たない状況になっている。

市長

- ・民生委員にも経験年数のある方がいるということが大事なので、研修会の開催も考えながら、現在行っている水準を確保していきたい。また、民生委員の負担の軽減のため、今はあつまり福祉ネット²などを活用して地域に頼れる人が増えるようにしている。民生委員にはその中心としてネットワークの指導の役割を期待している。

² 住民にとって身近な活動範囲である小学校区を圏域として、地域の福祉・生活課題を解決するために、自治会、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、福祉活動員、高齢福祉推進員等が、それぞれの役割と地域の特色を活かしながら連携し、共に支え合う地域福祉ネットワークのこと

参加者

- ・高岡市が飛越能地域の中で中心的役割を担っていくためには能越自動車道が重要となってくる。能越自動車道の福岡料金所がなくなるという新聞報道を見たが、その場合は、どこで料金を支払うことになるのか。

市長

- ・現在、能越自動車道は、小矢部砺波ジャンクションから高岡インターまでの区間が有料となっているが、東海北陸自動車道から能越自動車道に入る際に料金徴収の仕方がかわることから、福岡料金所において現金で精算していた分を、E T Cを利用して一括して精算できるようにしたいというものである。以前から、能越自動車道の無料化については県へ要望しており、少しずつ進めていきたい。